

会 議 名	令和6年度 第2回 稲沢市社会教育委員会・公民館運営審議会
開 催 日 時	令和6年11月20日（水） 午後2時00分～3時50分
開 催 場 所	稲沢市勤労福祉会館 3階 第2・3会議室
主 催	生涯学習課
議 題	◎あいさつ 協議事項 1 令和6年度主要事業報告について 2 令和7年度主要事業に係る取り組みについて 3 その他
出 席 者	【委員】 吉川光彦、大野芳樹、定行加保里、大室有美、服部みどり、牧修、藤田美知子、牛嶋みゆき、内藤伸一朗、松原正明、木村甲志朗 【事務局】 教育長、教育部長、生涯学習課長、スポーツ課長、図書館長、美術館長、各課グループリーダー、生涯学習課主任 計11名
備 考	傍聴者なし

【会議概要】

◎あいさつ

（教育長）

- ・御多用のところお集まりいただいたことへのお礼。
- ・暑い暑いと言っていたが、このところ急に寒くなり、体の調子を崩される方もみえる。体調には気を付けていただければと思う。
- ・本日の協議事項としては、「令和6年度主要事業中間報告について」、「令和7年度主要事業に係る取り組みについて」となる。
- ・社会教育委員の皆様はそれぞれの立場、それぞれのところで多くの経験や知識をお持ちの方。様々な御意見をいただいて、今後の取り組みに活かしていければと思う。もちろん様々な制約もあるので、お話しいただいたことすべてがそのまま実現できるかは検討が必要となってしまうことは御理解いただきたいと思う。

※愛知県教育表彰式に出席のため委員長は欠席

（副委員長）

- ・社会教育委員会が年2回から3回になった経緯は分かっているか。

(教育部長)

・副委員長の言われた通り、今まで社会教育委員会は2回だったが、社会教育委員の意見を入れて新しい社会教育目標を作るということで、予算の関係もあり、この時期に第2回を開催し、年3回行う。

(副委員長)

・そのとおりで、本来は社会教育目標があつて事業がある。第2回で社会教育目標を作っていたいて、予算の関係で手直しはあるが、事業を進めていくうえでもとになるものがないといけないということで年3回にさせていただいた。

・愛知・地域づくり推進大会が新城市であったが、旅費をとっていないということがあった。社会教育委員が他の地域で何をしているかはやはり気になるころだと思う。必ず旅費を取っていただきたいと思う。

◎議題

1 令和6年度主要事業報告について

資料1「令和6年度 主要事業報告書」について生涯学習課、スポーツ課、図書館、美術館の順で説明

(生涯学習課)

・昨年度の5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、今年度からは計画どおり講座・事業が進んでいる。

・寿教室では、テーマを健康や歴史だけでなく、DXの関心を高める内容も取り入れている。

・成人大学では、NHKの大河ドラマのテーマを取り入れて開催。

・親子ふれあい広場では、最近、男性の育休の取得が進んでいるためか、平日でも夫婦での参加があった。

・家庭教育学級では、今年度から全校生徒へのちらし配布を取りやめたためか、応募者が少なく残念な結果となった。ただ、ペーパーレスは時代の流れであり、次のPR方法を検討していく必要があると感じている。

・天体観測教室は、すい星の地球への接近という天体イベントに合わせ実施した。当日は残念ながら天候に恵まれず、屋内運動場での学習となったが、子どもと参加した親も熱心に学習に取り組んでおられた。

・公民館事業の講座・教室では、伝統的な習い事であったお茶・お花のニーズが低下傾向にある。来年度に向けて、講座数の削減も検討している。代わってお菓子作りの人気が高まってきている。

・春の芸術祭・市民茶会を名古屋文理大学文化フォーラム大ホールで開始した。中ホールが天井耐震化工事のため使用できなかったことによるもの。お茶・お花チビッコ体験教室は昨年度から復活している。

- ・稲沢音楽祭では、一宮市を活動拠点としているソノーレクラリネットアンサンブルをお招きし、654人の来場者があった。
- ・愛知県文化協会連合会西尾張部芸能大会を名古屋文理大学文化フォーラム中ホールで開催した。これは西尾張部に加盟する9市町村の持ち回りで開催している。当日は稲沢市文化団体連合会総出で協力体制を取り、無事に開催することができた。
- ・中高記念館公開&稲沢の文化財展では、稲沢まつりの期間中に中高記念館の内部を公開するとともに、稲沢ふるさとガイドの会の御協力により、特別展「赤染衛門と尾張」と題してパネル展示を行った。
- ・文化財保存修理の2件のうち1件が完了している。山車の車輪部分の保存修理により動きがスムーズになった。
- ・市史編纂事業では、祖父江町地区・平和町地区什物調査報告書の年度内の発行に向けて現在原稿を構成中。
- ・地域学校協働活動推進事業は、昨年度から大幅に増え、現在31校で地域学校協働活動推進員の方々に委嘱することができている。地域と学校をつなぐコーディネーターとして活躍していただき始めている。
- ・令和4年度に始まったホールの天井耐震化工事については今年度の6月末に中ホールまで無事に完了している。

質疑応答

(委員)

- ・来年度も全ての事業を行うということでよいか。

(生涯学習課)

- ・今年度を実施したものは来年度も実施する予定だが、天体教室については、天体イベントがあるかによる。

(委員)

- ・祖父江生涯学習センター「ソブエル」の講座で茶道・華道の参加者が少ないので、削減を検討しているとのことだったが、大事な伝統文化なので、何とか継続していく方向で先生方とも検討して欲しい。

(生涯学習課)

- ・無くすことまで考えていないが、例えば華道が2コマあるが1コマ別のものに振り替えることを考えている。どうしても総額でやりくりしているので、別のものを取り入れつつ、残すものは残すという形で考えている。

(委員)

- ・伝統ある茶道や華道は残していただければと思う。

(委員)

- ・本当の意味での公民館の事業はどれでしょうか。

(生涯学習課)

・いわゆる本当の意味での公民館の事業というのは該当するものはないということになっていると思っている。祖父江生涯学習センター「ソブエル」は公民館ではなく生涯学習センターで、純粋な公民館というわけではない。ましてや稲沢の場合は各公民館に直接公民館主事は置いておらず、これからも置かれることはないと思うので、こういった形になってしまっているのが実情。

(委員)

・公民館といいながら、違ったことをしてはいけないと思う。国からの補助金をもらっているのか。

(生涯学習課)

・昔、公民館を建てる時や複合施設を建てる時に、補助金の関係でああった形の建物が建設されたが、今はそういった補助金はないと聞いている。市町村合併の時にルールが変わり、ある程度年数が経たないと名称の変更ができなかったが、今はそれが緩和され、名称から公民館を外すことも可能と聞いている。ただ現段階で名称を変えるというところまでは行きついていない。

(委員)

・いつも（公民館運営審議会）とついているので、稲沢市は無しなら無しでやっていってもいいのかなと思ってしまうが、ある以上は何か工夫しないといけないと思う。名称の問題で時代的にOKとなれば、それはそれでいいのではないかと思う。

説明

(スポーツ課)

・トップアスリートとの交流事業のウルドタウン部活動応援レッスンとしてバレーボールチームウルフドッグス名古屋から中学校の部活動に選手・指導者を派遣して、トップレベルの技術やプレーを体感していただくことで、技術・競技力の向上につながった。

ハンドボールチーム豊田合成ブルーファルコンによる巡回指導は12月・1月に予定している。

また、7月23日にウルフドッグス名古屋のコーチ・選手を講師に小学生対象にバレーボール体験教室を開催し、131人の参加があった。

・着衣水泳指導の実施について、毎年、小中学校からの実施希望が多くあったが、希望するすべての学校での実施が難しいため、令和5年度より小学校のみの実施に変更した。

・地区体育振興会について、令和2年度から新型コロナウイルス感染症の影響により3年間中止していたが、運動会の実施が再開している。課題として、各地区体育振興会に運動会の事業に対して補助金を交付しているが、コロナ禍により、事業の縮小があったり、運動会を3年間実施していなかったりしたこと、役員交代により経験された方がいなくなったことなどにより、体育振興会の運営に非常に苦勞されており、特に運動会の実施が非常に困難になっている地区があった。そのため、各地区の体育振興会の現状を

確認し、補助対象や内容の見直しの検討を進めました。今年度から地区全員を対象とした子どもから高齢者までの多世代が集い、地域住民の親睦と健康増進ための事業、ウォーキング大会などを運動会に代わる事業として、補助できるよう要綱の改正を行った。

- ・シティーマラソンでは、特別ゲストとして、現役バレーボール選手ウルフドッグス名古屋の山田脩造選手、チームマスコットのウルドくんにお越しいただき 1,612 人の参加があった。また、TG SPORTS 株式会社から各部門の優勝者にウルフドッグス名古屋の公式戦のペアチケットが贈呈された。

- ・スポーツ参加人口の年度別推移について、令和2年度以降新型コロナウイルス感染症の影響により、大きく落ち込んだが、徐々に回復している。コロナ禍により、スポーツを含めた地域の活動は縮小や変更を余儀なくされていたが、まずは、コロナ禍前の状態に1日でも早く戻るよう事業を進めていきたいと考えている。

質疑応答

(委員)

- ・バレーボール交流事業の参加学校は平和中だけか。

(スポーツ課)

- ・9月末時点では平和中だけだが、平和中以外も実施する。

説明

(図書館)

- ・貸出冊数、利用者人数、予約冊数は前年度同時期と比較し、約3%の減少。入館者数は約5%の増加。

- ・AV 館内利用、インターネット館内利用は増加傾向にあり、館内利用が復活してきたと考えられる。なお、平和町図書館は、コロナ禍以降館内の混雑緩和のため、視聴覚資料の貸出しのみとなっており、館内利用の実績はない。

- ・電子書籍につきましては、わずかに増えている結果となっている。

- ・手作り体験イベントのこどもの広場がこの度再開し、多くの参加者でにぎわった。しかし、図書館ボランティアそよかぜから高齢化や対応の難しさもあって、これをもって対面の子どもの広場の開催は中止し、今後は作品配付のみ実施となると報告を受けている。それを受けまして、本日からクリスマス関係の配布物を図書館のエントランスに展示している。

- ・映画会について、夏休みの映画会が好評だったため、冬休みの映画会でも同一作品の上映をすることになった。

- ・きらら会40周年記念絵本作家スギヤマカナヨさん講演会については、きらら会発足40周年を記念し開かれ、絵本の制作秘話や全国で活動を展開されている絵本のワークショップなどについてのお話をいただいた。

- ・英語で楽しむ絵本の会について、名古屋文理大学との連携により初めて実施した。指導教員と学生ボランティアによる英語と日本語での絵本の読み聞かせと英語の手遊び歌

を親子で楽しんだ。

- ・新規採用職員研修では、任意で学校単位ごとに行われてきたが、今年度は全体研修として新規採用職員の図書館見学が実施された。特に児童・生徒に携わる児童閲覧室、YAコーナー、地域資料コーナーを中心に見学していただいた。
- ・図書館特別講座「読みたいに応える図書館・学校図書館 ～ニーズが高まる読書バリアフリー、はじめの一步～」について、専修大学教授の野口武悟氏による講演を開催した。
- ・図書館教養講座第1回「折り紙や切り紙で幾何学を楽しもう」では、東洋大学社会貢献センター講師派遣事業により東洋大学理工学部教授の吉野隆氏を講師に開催した。

質疑応答

(委員)

- ・利用状況の貸出冊数、利用者人数のWEBで貸出延長を行った冊数(人数)とはどういったものか。

(図書館)

- ・貸出された図書を貸出延長する場合は窓口で申請しなければいけなかったが、現在は、インターネットのサイトを通じて、貸出延長が1回だけ行えるようになっている。

(委員)

- ・インターネットを利用される方が増えているか。

(図書館)

- ・現実にWEBの利用はかなり増えており、予約冊数でも窓口よりもWEBがかなりの割合を占めている。

説明

(美術館)

- ・特別展「安野光雅展 イマジネーション・ワンダーランド」は、会館以来初めてとなる絵本原画の展覧会となる。安野光雅は、歴史ある国際的な賞を次々と受賞し、幅広い世代に高い知名度を誇る絵本作家であり、エッセジャーに例えられるような空想力に富んだ風景画を得意とした。生涯で約150冊以上の絵本等を手掛けた多彩な創作活動の中からこの展覧会では、風景表現に着目し、風景画で構成された「旅の絵本」、旅先のスケッチによる「フランスの道」、隠し絵絵本の大ベストセラー「森の絵本」など水彩やパステルなどによる約70点の原画を展示している。常設展示室の当館の顕彰画家荻須高德の油絵による重厚な風景画、水彩画と併せて展覧することで、風景を描く両者の魅力をより多角的に発見できると考えている。会期中には関連事業として、例年開催している子ども美術講座、美術館大学パートナーシップ連携企画に加え、学芸員によるギャラリートークも企画している。
- ・ギャラリートークについて、特別展安野光雅展についても開幕1日目の10月26日(土)に第1回目を行い、午前・午後併せて38名の方に御参加いただいた。第2回目

は12月1日（日）の午前・午後を予定している。

質疑応答

（委員）

・特別展について安野さんと比較するという点で展示されたと理解したが、荻須さんと関わりがあったか。

（美術館）

・両者を観ていただくことでより両者の魅力を引き出せると考えて企画したもの。これまでは、荻須画伯と関係のある方、例えば大学で師事された方、パリで縁があった方等を選んでいましたが、開館40周年を経て、新たに荻須画伯の魅力を引き出せる方という観点で、ご縁があったわけではない。安野光雅も「フランスへの道」やイタリアに関して風景画を多く描いており、荻須画伯もフランスの街並みが主だが、イタリアも好きでバカンス等でよく行っており、ヴェネツィアの街並みとかを多く描いている。その辺りで共通するところもあり、関連性として油絵と水彩と違うが、両者を観ていただくことで、より両者の魅力が出ると考えている。

（委員）

・利用者から荻須さんと関係ある方しか取り扱わないのだろうかと聞かれていて、違う分野の作品の特別展もやっていただきたいと聞いていた。荻須さんと関わりある方も限りがあると思う。今後もこの方向性でやっていくか。

（美術館）

・これまでは荻須画伯と関連のある方でやっていましたが、今回のように特段荻須画伯と関係がなくても、お互いの魅力を引き出せるような方に関しては取り扱っていく。

（委員）

・様々な分野の方が特別展で展示されると、来場者の幅が増えるのではないかという思いがあった。

・SNS等で荻須美術館は発信されて、工夫されているのでこれからもお願いしたい。

（委員）

・特別展限定メニューの提供について面白い取組みだと思う。どのようなものか伺いたい。

（美術館）

・例年同じよう形で特別展にちなんだ限定メニューの提供をしていただいている。特に美術館近くのカフェタナカさんには毎年のようにやっていただいている。今回、パン工房 ベルクさんが最近できたお店ということもあってPRしたいということもあって参加していただいて、安野光雅にかけてあんみつパンというのを作っていただいた。チラシを持っていくと割引きもしていただいている。

（委員）

・細かい決まり事とかがあるわけではなく、関連するようなものであればいいということか。

(美術館)

- ・職人さんもインスパイアされて作られていて、何か関連するもの作っていただいている。

(委員)

- ・限定メニューを食べに行ったが、どうせならもっと面白いインパクトがあってもいいかなと思う。

2 令和7年度主要事業に係る取り組みについて

資料2「資料2 令和7年度主要事業に係る取組みシート」について生涯学習課、スポーツ課、図書館、美術館の順で説明

説明

(生涯学習課)

- ・社会教育目標について説明。
- ・地域学校協働活動推進事業について説明。

質疑応答

(委員)

- ・取組みシートの文字だけでは何をやっているか分からないので、地域学校協働活動について、国分小、丸甲小、三宅小の活動報告を配布していただいた。
- ・地域学校協働活動や部活動地域移行についても途中経過でもこういう場で資料を配布し報告して欲しい。

(教育部長)

- ・今後できるだけ資料を出す形でやっていきたい。

説明

(スポーツ課)

- ・社会教育目標について説明。
- ・トップアスリートとの交流事業について説明。
- ・ウルフドッグス名古屋と連携し、2月1日・2日に稲沢市の魅力を紹介するイベント「ウルドタウン稲沢 DAY」を開催する予定で関係者と協議を進めている。
- ・バスケットボールチーム豊田合成スコーピオンズは昨年度 B3 リーグを退会し、今後の活動が未定となってしまったが、B1 リーグに所属するファイティングイーグルス名古屋が今年度から ENTRIO でホームゲームを開催するようになった。ファイティングイーグルス名古屋とスポーツを通じた連携できるか協議を進めていく。
- ・第20回アジア競技大会（愛知・名古屋2026アジア競技大会）について説明。

質疑応答

(委員)

- ・派遣いただいた職員は、意欲的に動いており、競技に専念する役割があると聞いている。それ以外にアンテナを高くして、稲沢市にとって有益となるような情報収集を助言した。今後、組織委員会がどのような要望が出てくるかわからないが、ひょっとしたら費用負担を市に依頼することもある。シティドレッシングについても市が負担するということになるかもしれない。その辺りの心構えはしておいた方がよいと思う。
- ・皆様が大会を終えて本当に良かったと思えるようなものにしたいと思っている。
- ・2年前イベントで一宮市に行ってきた。一宮市長とも話をしたが、一宮市は意欲的に動いている。地元の稲沢市を大切にしており、盛況になって欲しいと思っている。

(委員)

- ・ボランティアの募集については、応募したら審査受けてだがやってもいいのか。

(委員)

- ・10月21日から1月31日まで募集している。応募フォームに要項等記載がある。また、ボランティアのコールセンターもあるので、御不明な点があればお気軽に御連絡いただきたい。
- ・応募要件が2026年4月1日時点となっており、満18歳以上で応募時に18歳未満だと保護者の承認が必要となるが、それ以外の方は応募いただける。ぜひ、御応募いただきたいと思っている。

(委員)

- ・部活動指導員についてテトルとHPに募集案内が掲載されたが、何部があるのかが書いてなかった。
- ・土曜日、日曜日は部活動指導員でやっていくというのが流れで、学校の先生も部活動指導員になれる。稲沢市は今のところ地域連携でよかったか。

(教育部長)

- ・そのとおり

(委員)

- ・やりたいという気持ちがある人でもHPを見ていないと募集しているのが分からないのか。常にHPを見ている訳ではない。

(スポーツ課)

- ・部活動の種目がないというのは手落ちであったと思うので、改善していきたい。
- ・地域移行だよりについては学校向けに出しているもので、小中学生の保護者に情報を流している。一般やスポーツ協会、各競技団体・連盟の方には、別に具体的な内容等含めて指導者の募集案内を行っていくことを考えている。また、その際はご応募いただければと思う。

(委員)

- ・今の話は地域移行だよりも書かないといけないと思う。検討委員会の中でどのように広報するかもし合わないといけない。

(教育部長)

・部活動指導員を増やすというのは地域移行の前段階で、学校で子どもの人数が減少しているので、1つの学校でクラブ活動ができないということがあり、まず拠点校をつくる。そこに部活動指導員を今後、募集する。ただ、部活動指導員については、費用がかかり来年度予算に関わるため、はっきりとしたものではなく、今は希望を募って人材バンクという形で稲沢市はつくっていきたい。愛知県でも部活動地域移行の人材バンクがあるのでそちらにも登録している。実際に学校の状況として、専門外のクラブ活動で教員の負担になっている。教員には希望を取って部活動をやりたいという教員を募集している。それだけでは配置としてやっていただける教員の数が減ってくるため、保護者の方に御協力いただけることがあるかどうかをお願いしている。ただ、あくまで稲沢市の最終形というわけではない。将来的には地域に移ってやっていくのが最終目標であり、まずは、令和8年度の2学期から休日だけが部活動指導員にお願いして拠点校で実施していくというのが今の段階。

(委員)

・検討委員会にもっと部活動指導員を入れないといけない。やっていただける人がやっていただける人を増やさないといけない。分かっている人がやらないと机上の空論になってしまう。

(委員)

・トップアスリートとの交流事業を通じて、稲沢市で強豪チームができるといいなと思う。

(委員)

・豊田合成でハンドボールチームのブルーファルコンジュニアがもちろんお金はかかるが、平日2回と土日が1回活動している。西尾張大会で2位になった。

(スポーツ課)

・バレーボールについてもジュニアチームを作って活動している。費用や送迎の負担はあるかと思うが、そういったチームは作られている。

・部活動についてはもっと回数を増やしていただければいいが、試合の日程や費用面で難しいところもある。今後も続けていただきたいと希望させていただいている。

(委員)

・バレーボールは小学生を集めて教室を開催しているが、ハンドボールの教室は開催されないのか。

(スポーツ課)

・ウルフドッグス名古屋はスポーツチームとしてサポート体制が整っており、会社組織として、運営も教室開くときなどスムーズに実施できるが、ブルーファルコンは企業活動が主で、携わっている方も人事部門であったりするので、なかなか対応が難しい状況はあるが、せつかくそういった強豪チームがあるので、教室を開けることができるよう協議していく。

(委員)

- ・アジア大会だが、開催、運営等はスポーツ課が主体でよいか。

(スポーツ課)

・携わるのは、聖火リレー、文化的イベントの開催や各学校をまわっての交流イベントが検討されている。また、総合体育館が練習会場となり、どこの国の選手が使用するかわからないが、そういったチームとの交流や鉄道の駅が近いので通路に関しては移動の計画は必要ないかもしれないが、ああいったところのシティドレッシング、救急医療体制や施設自体が1日4試合できるようになっていないため、仮設を作らなければいけないといったことが発生する。運営本体は日本ハンドボール協会や県のハンドボール協会が主になるが、それに携わる関連するものは稲沢市が主体となることもあるだろうと思う。

(委員)

- ・ただ開催するだけでJRから降りて試合観に行き帰るのでは寂しい。関連事業があるということで、稲沢市が盛り上がり、収益でも皆さんが儲かる仕組みも稲沢市役所や市民が一丸となってやっていただけたらと思う。

(委員)

- ・アスリートの学校訪問が行われている。
- ・全国ボウリング大会が開催されているが、泊るところがないということで名古屋市や一宮市に行ってしまう。過去には宿泊施設の整備をお願いしたこともある。
- ・世界中からお金を落としてももらえないと寂しい話なので、2年くらいの間にそうした仕組みを確立して欲しいと思う。

(委員)

- ・ぜひ、稲沢市をひとまとめにして頑張ってください。

(スポーツ課)

- ・商工観光課や観光協会と連携しながら、こういったことができるか検討していきたいと思う。大きな大会だと、スポンサーの関係もあり、取り扱える屋号や商品名がかなり制約を受けることがあるので、十分注意しながら進めていきたいと思う。

(委員)

- ・稲沢市が盛り上がりハンドボールを話題にしましょう。

説明

(図書館)

- ・社会教育目標について説明。内容については図書館協議会にて図書館協議会委員にも協議いただく予定。変更・修正が生じた際は改めて報告する。
- ・子ども読書活動の推進（稲沢市子ども読書活動の取り組み）について説明。

質疑応答

(内藤委員)

・校長会の中でも市内の図書館と学校図書館のオンラインによる連携が取れるような仕組み、整理をお願いしたいという要望を出している。予算の優先順位が低いのではと推察するところだが、ただ子どもたちが紙の図書カードを書いてやっているのは大事な活動で何冊借りたか分かって励みになるのでいいが、その一方で、ICTもそうだが、様々な場所で子どもたちが主体的に学ぶ中で、学校図書だけでは対応しきれない文献などが、稲沢市内の図書館で、学校の端末から予約が出来て、閲覧できるようになると、よりスピーディーに学びが連携していくと考えると、環境面での整備も進めて欲しいと思う。今後の予定の中に組み入れられているか。

(図書館)

・図書館としては、システムに関しての予算要求はできない状況のため、それに代わるものとして、どのように学校図書環境に寄り添うことができるか、その事業をどのように展開していくかを課題として捉えている。今後どのような形で学校の読書環境を改善することに貢献できるかを考えていく。

(委員)

・新たにシステムを何かしようとしたときにやらないといつまでも経っても難しいと思う。

説明

(美術館)

- ・社会教育目標について説明。
- ・令和7年度特別展「荻須高德 リトグラフ展 ―稲沢市荻須記念美術館コレクション― (仮)」について説明。

3 その他

配付資料について生涯学習課から説明

〈午後3時50分閉会〉